

海洋工ネ調査英社が進出

五島列島沖など 潮流発電後押し

海洋再生エネルギー関連コンサルティングの英アクアテラ（スコットランド・オークニー諸島）は九州に進出する。日本の海洋環境調査会社と提携、長崎・五島列島沖などで海底の地形や潮流など九州の海況に関するデータベースを年内にも構築する。データベースやコンサルのノウハウを活用し、潮流発電や洋上風力など海洋再生可能エネルギーの実用化を後押しする。

海洋環境を調査する渋谷潜水工業（神奈川県平塚市、渋谷正信社長）と提携した。アクアテラは地形や潮流などの海に関する様々なデータを収集している。これに渋谷潜水の担当者や海中ロボットが潜って調べた地形データや、漁業資源の情報などを組み合わせ、データベースを作る。

アクアテラは海外の民間企業として初めて、長崎海洋産業クラスター形成推進協議会の賛助会員になった。協議会が7月半ばに欧州に派遣する高校生と大学生の「長崎海洋大使」の活動も全面支援する。協議会は海洋エネの新産業創出を目的に地場企業30社以上で2014年に設立した。

洋上風力発電などを実用化するための実証実験

では、海洋調査や漁業者との調整、行政への許認可手続きなどが必要になる。

州海洋エネルギーセンター（EMEC）のあるスコットランド北部のオークニー諸島で、潮流や波力、洋上風力などの開発企業をサポート、環境調

査や申請交渉を代行している。EMECでのノウハウを伝え、九州での海洋コンサル企業の育成に協力する。

アクアテラは00年設立で、直近の年商は300万程度。英国がEU（欧州連合）から離脱しても、対日戦略に変わりはないとしている。